

# 伊藤理恵 × ベーゼンドルファー × シューベルト

30代にしてその表現の深さと個性で評論家を驚嘆させた伊藤理恵は、特異な経歴を持つ知性派ピアニスト。アカデミックな主流に属さず、密度の高い自主公演のリサイタルを通し、独自の音楽世界観を構築してきた。2017年リサイタルシリーズ第2回はシューベルトプログラム。伊藤が大切にしてきたこのウィーンの作曲家、晩年の作品を聴く。

2つの即興曲集はそれぞれ4つの曲から成っており、性格的小品の先駆者シューベルトらしい代表作で、無垢な旋律と美しいハーモニーで広く親しまれているが、全8曲がまとめて演奏される機会は意外に少ない。D935は、ソナタとして構想されたのではないとも言われており、関連性を意識して聴くと興味深い。またソナタ第19番 D958は、死の数週間前に書かれた3つのソナタのうち、ベートーヴェンの影響が色濃い重厚な作品。シューベルトならではの豊かな楽想とロマン的な情熱を併せ持つ傑作だ。これまでも叙情性と陰影に満ちた表現で、シューベルトの演奏において高い評価を得てきた伊藤がいざなう、清冽にして深遠な晩年の世界を味わう。

伊藤が全幅の信頼を寄せる調律師とのコラボレーションにより、同じくウィーン生まれの名器ベーゼンドルファーの至福の音色によって紡ぎ出されるシューベルトの歌を、豊かな響きを持つCHABOHIBA HALLで存分に堪能したい。

第3回 / 10月29日(日) ブラームプログラム 幻想曲集作品116, ピアノ小品集作品118, 作品119 ほか 予定



## 伊藤理恵

1965年東京生まれ。国立音楽大学ピアノ科中退。一般職に従事後、指揮にて音楽活動を開始。弾き振りで協奏曲共演を契機にピアノソロでの演奏活動を開始し、1995年の初リサイタルを皮切りに、ブラームス後期作品全曲演奏会、ベートーヴェンピアノソナタツィクルスをはじめとしたリサイタルを開催。室内楽、オーケストラとの共演も多数。2002年にアルバム「ブラームス作品集～不安と憧れ」をリリース、レコード芸術誌などで高い評価を得るが、数年間の休止を経たのち、2011年東日本大震災チャリティコンサートにて演奏活動を再開、テーマ性のあるコンサートを意欲的に手がける。近年ベーゼンドルファー東京にてリサイタルシリーズに数多く出演。写真にも表現手段を求め、2012年には個展を開催。

## CHABOHIBA HALL

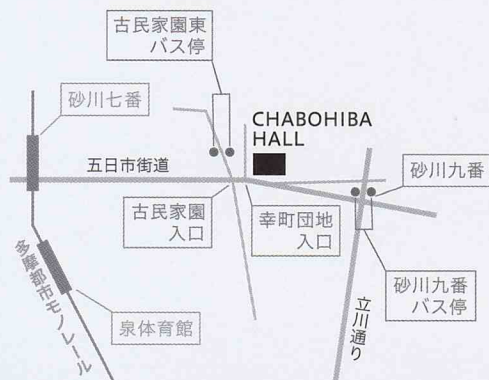
会場のCHABOHIBA HALL(チャボヒバホール)は、2015年12月東京・立川市にオープンしました。株式会社 永田音響設計による最高水準の音響を誇り、また美術館を思わせる独特の造形美が印象的です。ホールのシンボルでもあるチャボヒバの木を囲む回遊式的设计により、武蔵野の自然と調和した四季折々の美しい景色を楽しむことができます。響きと景観が一つになった今までにない個性的なホールです。

## CHABOHIBA HALL

(東京都立川市幸町 4-17-1)

TEL 042-595-8286 (平日 11:00 ~ 17:00)

<http://chabohiba.jp/>



モノレール 「立川北」駅より「上北台」方面行き「砂川七番」駅下車 徒歩 13分(乗車時間 7分)



バス JR立川駅 9番のりば → 「古民家園東」下車徒歩 2分(乗車時間 20分)  
6・7・8番のりば → 「砂川九番」下車徒歩 4分(乗車時間 15分)



タクシー 立川駅から、乗車時間 10分

※お車でのご来場はご遠慮下さい。